今日新聞

（夕刊）　平成29年（西暦2017年）　2月21日　火曜日　第19927号

別府溝部学園高校でカタリバ授業

生徒の心に火をつける

大学生が経験談を紙芝居で発表

大学生が経験を紙芝居での発表を真剣に聞く高校生ら

大学生と高校生が1対1などのグループで話し合った

大分大学とNPO法人カタリバが主催する「カタリバ（語り場＝語る場所）でキャリアが拓く～カタリバ特別授業～」が20日午後1時10分、別府溝部学園高校多目的ホールで実施され、大分大学および立命館アジア太平洋大学の学生計47人と同校看護科2年60人が参加した。

タテ（親や教員）やヨコ（同級生や友人）とは違うナナメ（年齢が少しだけ違う大学生）の関係で、高校生の心に火をつける―をテーマに、大学生などで設立されたNPO法人カタリバと大分大学が連携して平成25年度に「カタリバでキャリアが拓く」を開設した。これまで同年度2校、26年度3校、27年度2校、今年度は別府溝部学園高校含む2校で特別授業を実施している。

特別授業では、座談会として高校生1～2人につき大学生が1人のチームを組み、自己紹介。大学生は、親しみやすくするために本名ではなく愛称で呼んでもらうようにした。部活、頑張っていること、今の自分の満足度などを書くワークシートを活用しながら、生徒たちが夢や悩みなどを記入した。

続いて、大学生4人が多目的ホールの4カ所に分かれて、「大学生活」「進路選択」「高校生活」など、これまでの自分が経験したことを紙芝居方式で発表。高校生は、自分が聞いてみたいと思った大学生が発表する場所で、聴講した。

ある女子大学生は、高校時代にアルバイトなどをした体験を話して最後に「中学校までは、学校と家族が自分の世界でした。高校になり、いろんな体験をすることで、自分の世界が広がっていった。なので、皆さんも自分の今いる世界を広げていってほしい」と述べた。

最初のチーム編成に戻り、高校生は大学生との対話を通じて、今後の自分が大事にする約束を決めた。それを「約束カード」に記入し、見返すようにするという。

特別授業を終えた水野和花菜さん（17）は「実習に行って学校と病院の違いを体験し、困ったことやつらいことがあったけど何とか乗り越えてきました。大学生の話を聞くと、自分と同じような体験をしていることが分かり勇気をもらえました。これからも基礎をおろそかにせず、相手が不愉快にならないあいさつや態度を心がけたいと思います」と答えた。

同校では、18日にも普通科と食物科の計89人がカタリバ特別授業を受けている。